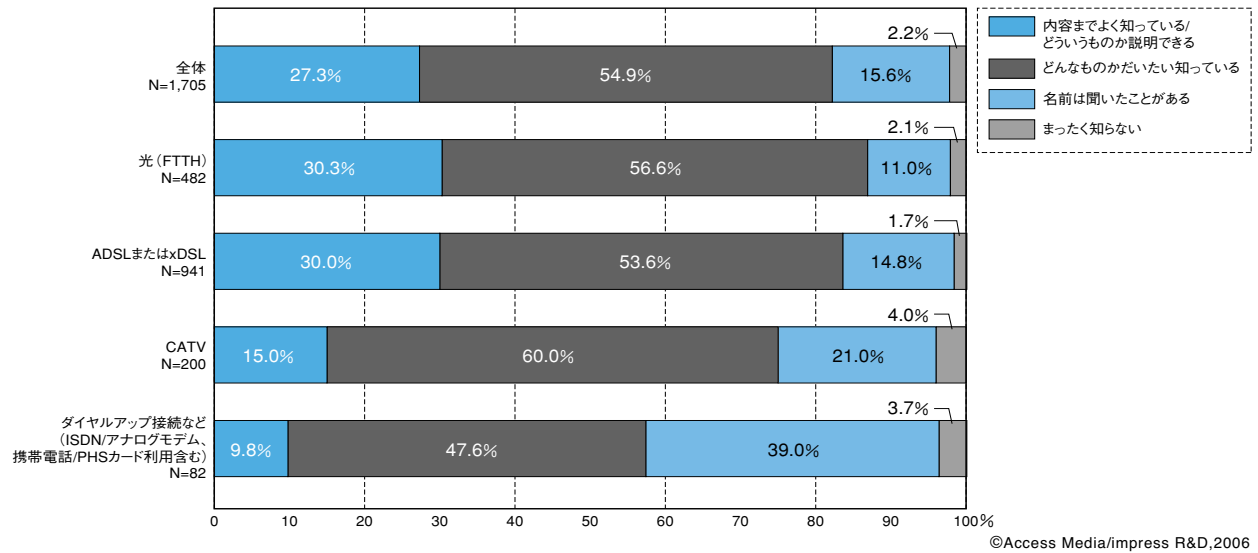


IP電話

IP電話の認知はほぼ100%

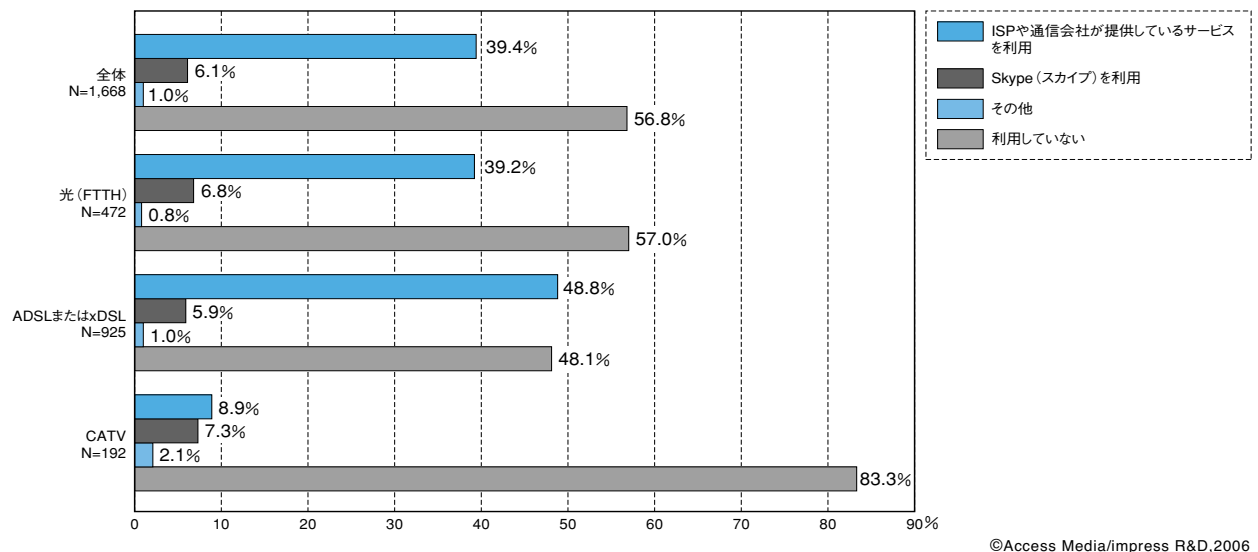
資料2-7-6 IP電話の認知度 [全体と接続回線別]



インターネット利用者全員1,705サンプルに、IP電話の認知について聞いたところ、ほぼ全員が認知している。特に接続回線別では、光 (FTTH) とADSLまたはxDSL利用者の3割が、IP電話の詳細を理解している。一方、ダイヤルアップ接続などの利用者は、接続回線がIP電話サービスに対応していないため、詳細までは理解しておらず、「名前は聞いたことがある」程度で4割を占める。

IP電話利用率は43.2%。Skype利用は6.1%

資料2-7-7 IP電話の利用有無 (複数回答) [全体と接続回線別]

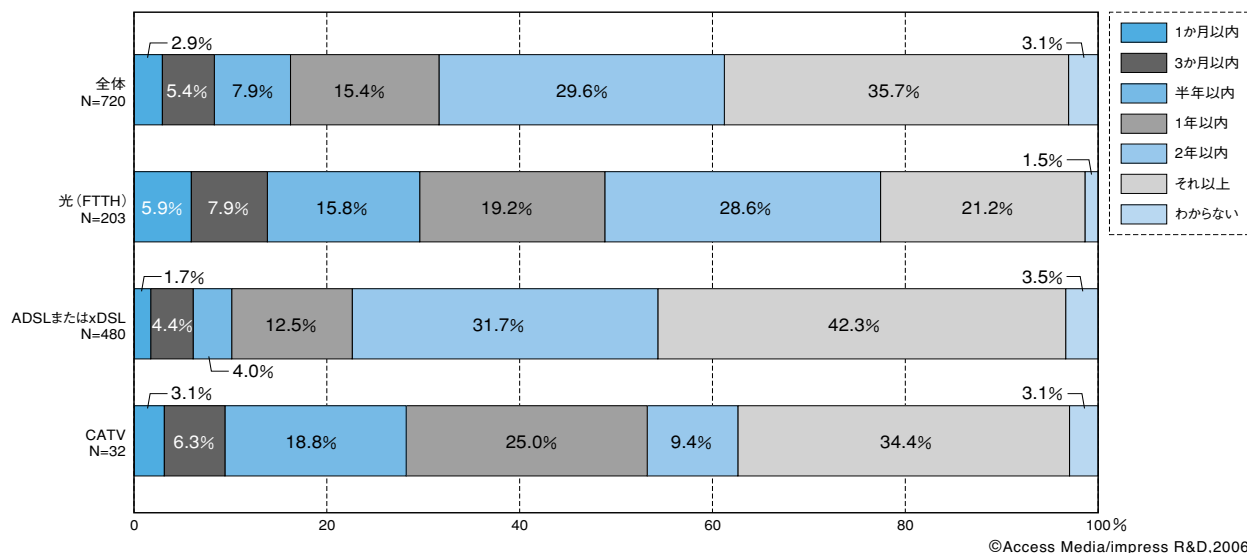


IP電話の認知者1,668サンプルに、接続回線別に利用状況を聞いたグラフである。ここでは、ブロードバンド利用者のみ表示している。IP電話の利用率は43.2%で、IP電話の利用形態は、「ISPや通信会社が提供しているサービスを利用」が約4割と利用者の大多数がISP提供サービスを利用している。接続回線別では、ADSL/xDSL利用者のIP電話利用率が高い。

IP電話

IP電話利用歴は1年以上が65.3%

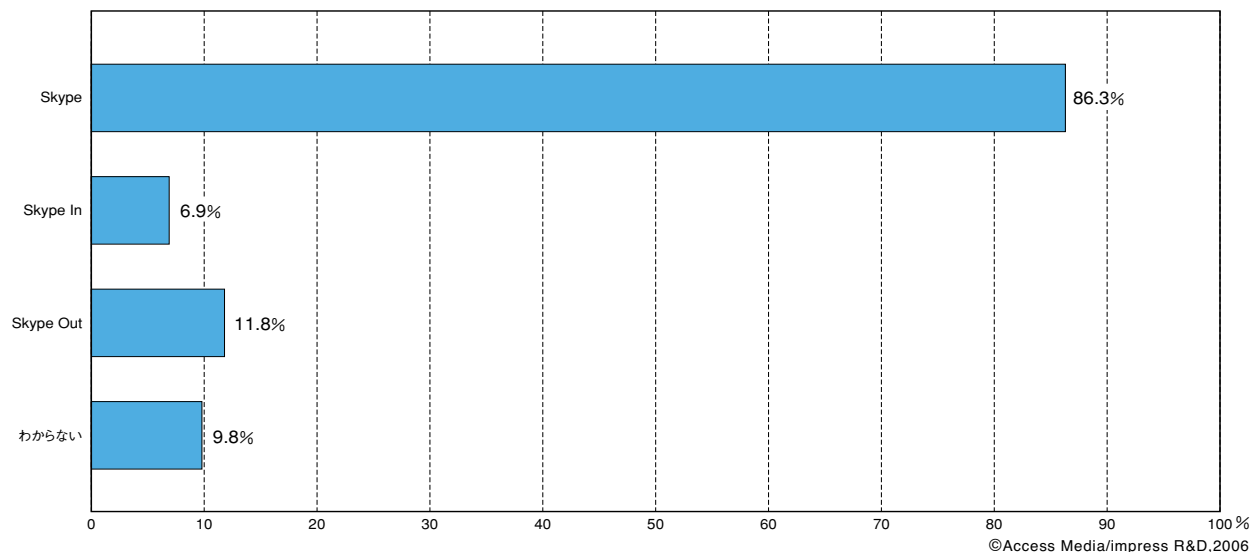
資料2-7-8 IP電話の利用歴 [全体と接続回線別]



IP電話利用者720サンプルのIP電話利用歴は、「2年以内」「それ以上」の比率が高く、IP電話利用歴としては、1年以上の長い利用者が6割以上を占める。接続回線別では、「ADSLまたはxDSL」は「1年以上」の利用者が7割以上を占め、IP電話利用者の中では古株に入る。一方。光 (FTTH) 利用者やCATV利用者は、「半年以内」や「1年以内」が多く、現在の接続回線になってからIP電話を契約したと見られる。

Skype利用者の主な利用は基本サービスSkype

資料2-7-9 現在利用しているSkypeの種類 (複数回答) N=102

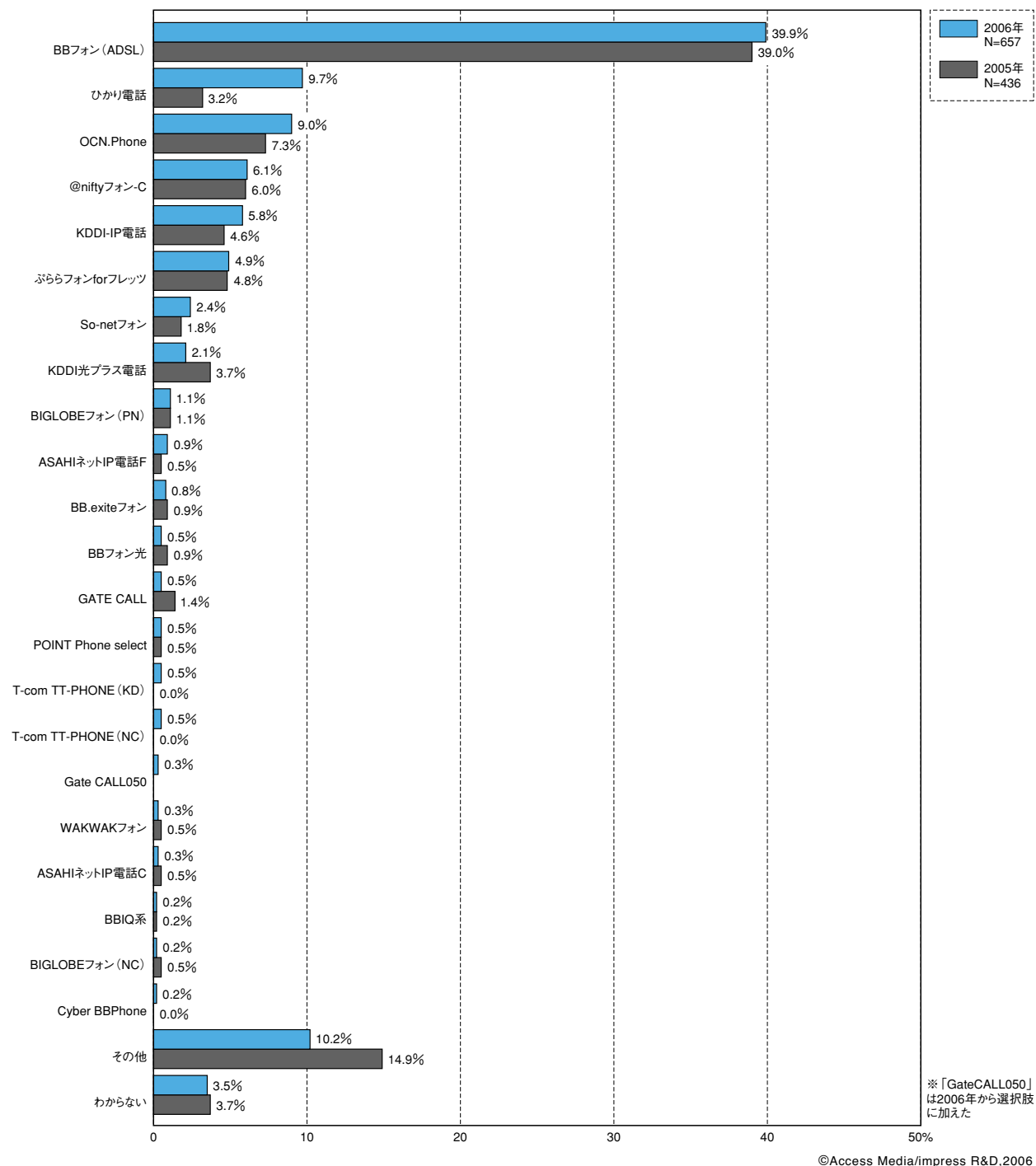


Skype利用者102サンプルが現在利用しているのは、基本サービスである「Skype」が86.3%で圧倒的に多い。有料となる「Skype Out」は11.8%、「Skype In」は6.9%と、利用率は低い。ISPなどが提供しているIP電話サービスの利用者や、Skypeのメリットである国際通話を行わないインターネット利用者には、Skypeの利用は特に魅力的ではないため、利用者が少ないと思われる。

IP電話

現在利用しているIP電話は、「BBフォン (ADSL)」がトップ

資料2-7-10 現在利用しているIP電話サービス会社 (複数回答) [2005年-2006年]

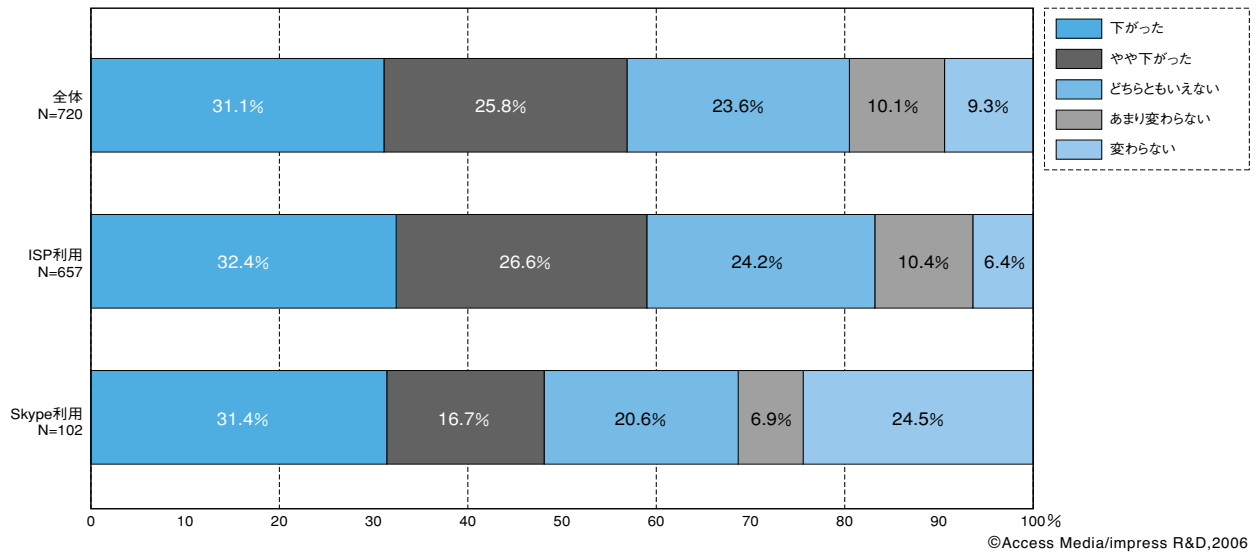


IP電話利用者 (Skypeのみの利用者を除く) に現在利用しているIP電話サービス会社について聞いたところ、昨年同様「BBフォン (ADSL)」がトップで39.9%である。BBフォンは、ADSL接続回線対応のため、ADSL利用者が多くを占める。また、ADSL、光事業者で今年利用者が増加した「フレッツ」は、「ひかり電話」(9.7%)、「OCN.Phone」(9.0%)と健闘している。

IP電話

56.9%がIP電話利用のコスト削減効果を感じている

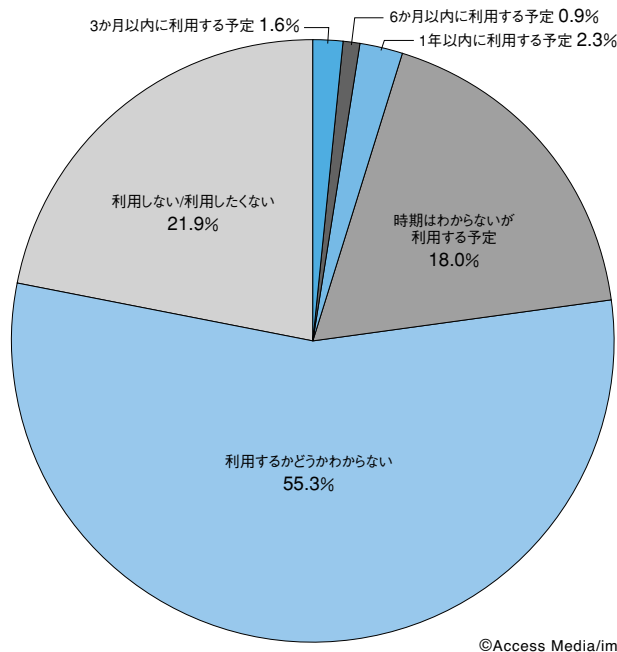
資料2-7-11 IP電話導入後のコストの変化状況 [利用サービス別]



IP電話利用者に対して導入後の通信コスト全体の変化について聞いたところ、56.9%の利用者がコスト削減効果を感じている。また、ISPサービスとSkype利用者の通信コストの変化を比較すると、ISP利用者のほうがコスト削減ができていていると感じていることがわかる。Skype利用者は、「あまり変わらない」「変わらない」が3割を超え、無料ではあるが、通話自体を行わない、利用者が少ないなどが理由として考えられる。

IP電話非利用者の利用意向は約2割と低い

資料2-7-12 非利用者のIP電話の利用意向 N=948

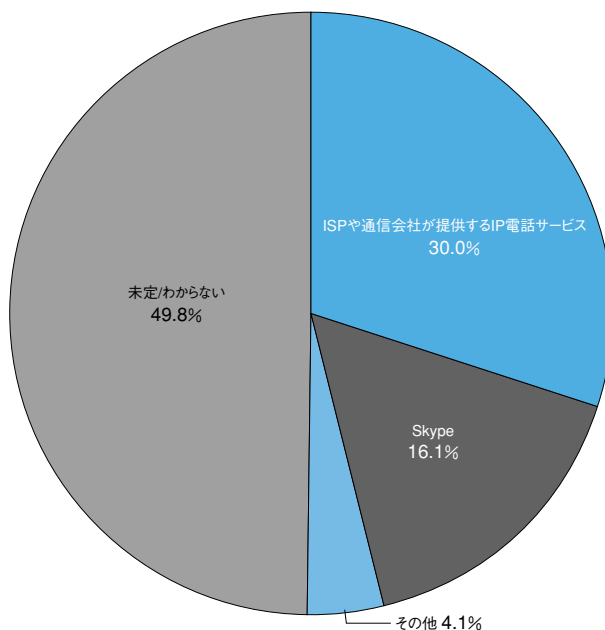


IP電話非利用者948サンプルの今後の利用意向は、「利用するかどうかわからない」が55.3%と「利用しない/利用したくない」の21.9%を合わせると、7割以上が利用に消極的である。緊急時（110番、119番）の通話ができない、同じIP電話サービス同士でない料金が発生する、携帯電話にかけられないこともある、050からの番号であるといったデメリットなど、固定電話の代替機になりきれないことが理由として考えられる。

IP電話

導入予定のIP電話利用サービスは「未定/わからない」が半数

資料2-7-13 IP電話導入予定者のサービス種別 N=217

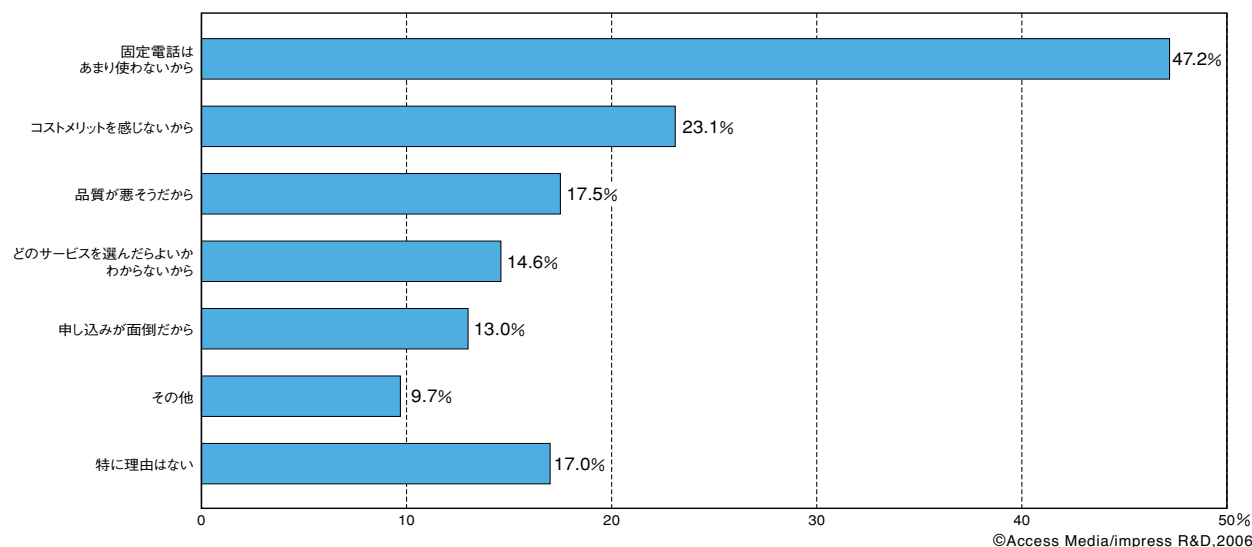


©Access Media/impress R&D,2006

IP電話導入予定者217サンプルの導入予定のサービス種類は、「未定/わからない」が半数を占め、ISPが提供するIP電話サービスは3割を占める。IP電話については興味はあるが、サービス内容についてはまだ検討段階であると思われる。

IP電話非利用理由は「固定電話はあまり使わないから」がトップ

資料2-7-14 IP電話の非利用理由（複数回答） N=731



©Access Media/impress R&D,2006

IP電話非利用者の中でも利用意向がない731サンプルの非利用理由は、「固定電話はあまり使わないから」が47.2%で最も高く、携帯電話利用に押されている固定電話利用の現状が垣間見られる結果である。また「コストメリットを感じないから」（23.1%）などは、同じIP電話サービス会社でないと料金がかかってしまうことなどを示唆していると思われる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp